

職業感染対策

～当院での安全衛生委員会における活動～

戸畠共立病院 健診センター

川邊 圭子

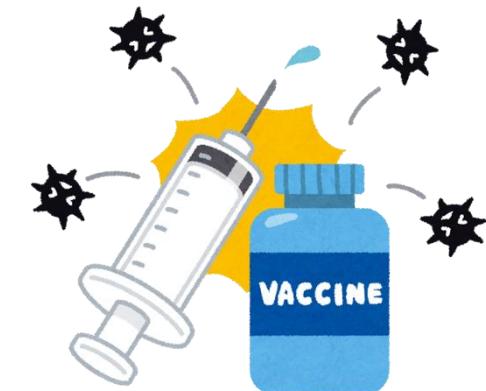
本日の内容

職業感染対策

1. ワクチンプログラム
2. 血液・体液曝露時（針刺し事故）の対応

当院でのワクチンプログラムについて

- ①入職時健診で抗体価を測定（MMRV、HBs抗体）
- ②抗体価が低いものに対して、ワクチンの希望調査を実施
- ③希望者へワクチンを接種
- ④ワクチン接種後の抗体価を測定



ワクチン接種スケジュール (2024年度)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
抗体検査	希望調査		HBV HBV		ムンブス ムンブス 水痘	HBV	インフルエンザ				抗体検査

ワクチン・抗体価のデータ管理について

- ・ 感染管理システムが導入されてないため、
総務課にて年度毎にExcelで保存（ワクチン接種者、抗体価データ）
(ワクチンについては、入職後に当院で接種したもののみを記録)
- ・ 抗体価は電子カルテから閲覧が可能（MMRV・HBs抗体）

今後の課題

- ・ 日本環境感染学会のワクチンガイドラインに準じた接種をおこなう
1歳以上で「2回」の接種を原則とし、記録の保管とワクチン接種を行う
- ・ 必要時、すぐに情報を取り出せるようにデータを一元化し管理する

血液・体液曝露時の対応について

血液・体液曝露事故

針刺し・切創

粘膜・傷のある皮膚への曝露

噛みつき

引っ掻き



血液・体液曝露による感染事例

噛みつかれてC型肝炎に罹患

病院の看護助手Xが主任看護師Aの指示によりベッドの上で激しく暴れる患者の体を押さえつける抑制作業に従事していたところ、患者に腕を噛まれてC型肝炎に罹患し後遺障害が残った場合に、病院Yに対して安全配慮義務違反による損害賠償を請求した事案

第5回職場のパワーハラスメント対策に関する検討会 説明資料案 (mhlw.go.jp)より抜粋

<https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-11201000-Roudoukjunkyoku-Soumuka/0000181539.pdf>

医療機関内の清掃業従事者のエイズ発症について

医療機関内の清掃業従事中に、使用済み医療器具による針刺しを頻繁に起こしていた57歳の日本人男性が、エイズ発症のために都内病院を受診した。当該男性がすでに死亡しており、国が本症例を特定して更なる調査を行うことは困難なため、HIVの感染経路を針刺しとは断定できなかった。

・使用済み医療器具由来のHIV等の感染予防について（依頼）（◆平成13年09月27日医薬安発第139号健感発第52号健疾発第70号）(mhlw.go.jp)より抜粋

https://www.mhlw.go.jp/web/t_doc?dataId=00ta5072&dataType=1&pageNo=1

インスリン針による針刺し事例など

- ・リキヤップ時に針刺し
- ・使用後の針が床に落下しており、針と気付かずに、拾った際に針刺し
- ・使用後の針を床頭台の上に放置、すぐに片付けるつもりが、その間に他の職員が針刺し
- ・ペン型インスリンのキャップを開ける際、前日使用した針が廃棄されておらず、それが指に刺さった



糖尿病リソースガイドより抜粋
https://dm-rg.net/guide/injectors2_list

他にも、使用後のカミソリを片付ける際に、手を切ったなど

医療・介護の現場において、血液体液曝露事故は日常業務の中で起こり得る事象である

血液・体液曝露予防策

標準予防策の遵守（適切な個人防護具の使用）

針刺し防止

- ・リキヤップをしない
- ・安全器材を適切に使用する
- ・使用後の針はすぐに廃棄する（廃棄容器を準備しておく）

血液・体液曝露で問題となる感染症について

	感染のリスク	ワクチン	曝露後予防策
HBV	30% 3回に1回	あり	速やかに（48時間以内に） 免疫グロブリン+B型肝炎ワクチン
HCV	1.8-3% 30~50回に1回	なし	なし
HIV	0.3% 300回に1回	なし	可及的速やかに (出来れば2時間以内に) 抗HIV薬の予防内服（28日間継続）

血液・体液曝露で問題となる感染症について

	感染のリスク	ワクチン	曝露後予防策
HBV	30% 3回に1回	あり	速やかに（48時間以内に） 免疫グロブリン+B型肝炎ワクチン
HCV	1.8-3% 30～50回に1回	なし	なし
HIV	0.3% 300回に1回	なし	可及的速やかに (出来れば2時間以内に) 抗HIV薬の予防内服（28日間継続）

B型肝炎（HBV）曝露の対策について

抗HBs人免疫グロブリン（血漿分画製剤）

血中に入ったB型肝炎ウイルス（HBV）は肝細胞に取り込まれ増殖する。本剤を投与すると、血中に存在しているHBVは肝細胞に取り込まれる前に血流中で抗HBs抗体により中和処理される。なお、HBVが肝細胞に侵入した後では、本剤を受動免疫として投与しても効果は期待できない。

ヘブスブリンIH静注1000単位の添付文書より引用

曝露後は速やかに
免疫グロブリン投与 + B型肝炎ワクチン接種を行う

HBVは感染力が強く、わずかな傷を介して感染する可能性がある為
医療従事者は、予めB型肝炎ワクチン接種をしておくことが重要！

血液・体液曝露で問題となる感染症について

	感染のリスク	ワクチン	曝露後予防策
HBV	30% 3回に1回	あり	速やかに（48時間以内に） 免疫グロブリン+B型肝炎ワクチン
HCV	1.8-3% 30~50回に1回	なし	なし
HIV	0.3% 300回に1回	なし	可及的速やかに (出来れば2時間以内に) 抗HIV薬の予防内服（28日間継続）

C型肝炎（HCV）曝露の対策について

曝露前後の化学予防（ワクチン、曝露後注射・内服）：なし

曝露後は、経過観察を行い、

感染が判明したら、速やかに治療を行う

血液・体液曝露で問題となる感染症について

汚染源	感染のリスク	ワクチン	曝露後予防策
HBV	30% 3回に1回	あり	速やかに（48時間以内に） 免疫グロブリン+B型肝炎ワクチン
HCV	1.8-3% 30～50回に1回	なし	なし
HIV	0.3% 300回に1回	なし	可及的速やかに (出来れば2時間以内に) 抗HIV薬の予防内服（28日間継続）

HIV感染防止のための 予防内服マニュアル

令和6年2月

(令和6年6月25日一部修正)

福岡県保健医療介護部がん感染症疾病対策課

<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/uploaded/attachment/226014.pdf>

Guideline

抗HIV治療ガイドライン

2024年3月



<https://hiv-guidelines.jp/index.htm>

令和5年度厚生労働行政推進調査事業費補助金イニシアチブ研究事業
HIV感染症および血友病におけるチーム医療の構築と医療水準の向上を目指した研究班

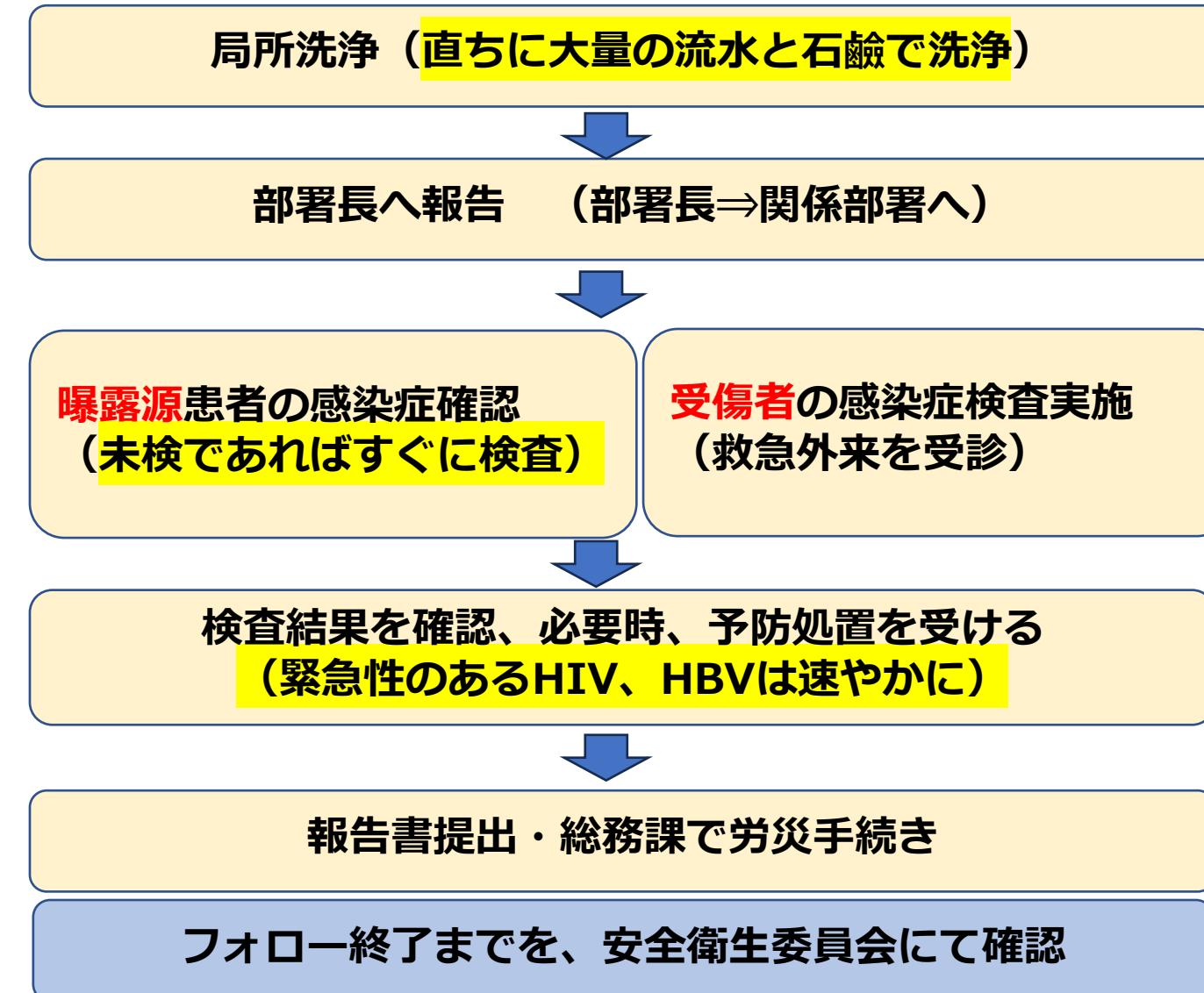
研究分担者：四本美保子（東京医科大学）

研究代表者：渡邊 大（国立病院機構大阪医療センター）

https://hiv-guidelines.jp/pdf/hiv_guideline2024_v3.pdf

当院での 血液・体液曝露時の対応について

当院でのフロー



感染症検査の同意取得

8. 針刺し 切創等発生時の採血検査のお願い

□診療上の処置・検査・手術などの際に、患者様の血液や体液が付着した器具による職員の針刺し等の事故が起こることがあります。このような際は、患者様の感染症が陽性の場合（HIV・B型肝炎・C型肝炎など）、当該職員に迅速に対応を講じる必要が生じます。

そのため、患者様の感染症が不明の場合は、緊急で採血をお願いすることがあります。つきましては、予め感染症検査の実施についてご同意をいただきたくお願い申し上げます。検査結果については個人情報保護を厳守いたします。

また、検査費用は当院で負担いたします。

何卒ご理解とご協力をお願いいたします。

■感染症検査（肝炎ウィルス、梅毒、HIV）について、その目的・方法などの説明

針刺し・切創等汚染事故が起きた際に、手術中は承諾が得られないで、予め術前に説明同意をとらせていただきます 説明あり [医師がチェック]

入院時共通同意書に記載

手術同意書に記載（術前説明）



現場からの声

『忙しい』『どうしたら良いかわからない』

「同意書どれ？」 「検査どれ選ぶの？？」

対応に慣れていない、現場が忙しいと後回しになる

困つたら、すぐにCALLを！ (産業医or安全衛生まで)